

# 常照

第843号

## お見舞い

令和六年能登半島地震により大切なご家族を亡くされ住まいや故郷に甚大な被害を受けられた多くの方々にご心よりお見舞いを申しあげます

また救急救助並びに復旧活動にあたられている皆様に感謝いたします

まだまだ不安な日々ではありますが一日も早く穏やかな日常が来ます事をお念じ申しあげます

この度震災義援金として金壱拾万円也を能登半島地震災害義援金配分委員会に送金させて頂きましたことをお伝え申しあげます

合掌

真宗 常照会

# あたりまえの

## すべてに感謝

令和五年の大みそか、自坊の掲示板に、『謹賀新年』の文字とともに、「あたりまえの すべてに感謝」この言葉をそえ、新たな年を迎えるための準備をしました。

十二月三十一日の夕方、本堂で家族そろって大みそかのお勤めをします。年取りの夜は、おせち料理とお酒を飲みながらゆっくりと過ごします（急な訃報などがあったときは別として）。家族とご馳走を囲んで、紅白を見て談笑しながらの時間を楽しみます。自坊には鐘楼堂も梵鐘もないので、「除夜の鐘」は突きません。紅白の後に放映される全国の寺社の除夜の風景を見て過ごします。毎年変わることにない恒例の大みそかの風景です。

元日は、修正会という新年のお勤めを本堂でおこないます。お参りの

みなさまに新年のご挨拶をして、みんなでお屠蘇をいただき、新年を祝います。

お参りの皆様がお帰りになられ、家族でお雑煮をいただき、いつもの元旦風景のなか、ゆったりした時間を過ごしていました。

突然、夕方の十六時過ぎ、北陸地方全域に石川県能登半島北部を震源とした震度七以上の大地震と津波の警報が、ニュース・ラジオなどで、けたたましく繰り返し流れ、テレビではシヨッキンキングな映像が映しだされていきました。

真冬の寒空に着の身着のまま非難されている方、倒壊したビルや建物の下敷きになられている方々もいるようです。信じられない出来事に茫然自失に立ち尽くす人々。

あたりまえの日常が、すべてこの





地震に奪われたのです。元旦の日の夕餉前、いつもの元日の風景が一瞬で奪われたのでした。

北陸地方は浄土真宗の御門徒が多い土地柄ということ聞いています。

日頃は勤勉で辛抱強く、伝統工芸品の輪島塗の漆を時間かけ根気強く、何度も何度も塗り重ねる行程や、蒔絵は二百種類以上の筆を使い巧みにコツコツと、根気強く積み重ねながら仕事をやっていくという、気質の方も多いとも聞いています。

余談ですが自坊の内陣は富山の宮大工さんにお願いました。

先の見えぬ避難生活であつてもなお、周りの人への気遣いと、援助してくださっている人への感謝の言葉が聞けたのは、お念仏に育てられた土徳があるからこそ、と感じたことです。

長男の嫁が二年前に亡くなりました。息子が思い出したようにしみじみみと、「妻の元氣だったころの何気ない日々の会話、一緒に喜んだこと、

楽しんだこと、泣いたこと、また些細な喧嘩、その何気ない日々がほんとは懐かしく有難かったな」こんなことをポツリと言いました。

「あたりまえ」はたくさんあります。平和に暮らすことが当たり前、目が見えて、耳が聞こえることが当たり前前、そのなにげない「あたりまえ」の有難さに気づくのは、それを失ったときなのです。

私達人間の物差しで計った当たり前前の日常は、無機質で平凡でつまらない一日として、不平や不満の種になりがちです。

しかしながら、仏様の物差しで計ると、当たり前と思っていたものは、全てが、宝ものであったことに気が付かされます。

仏様の智慧のお働きにより、「当たり前前」を「有難い」に変えていただき、ただ感謝のお念仏申すばかりであります。

翌日の朝、目が覚めて空気を吸い込んで、空を見たとき、あたりまえ



に深呼吸をして、空を見ることのできる。あたりまえに穏やかな時間をいただくことができる。その事から感謝致しました。

この度の地震で被災された方々、お亡くなりなられた方々に、心からお見舞いとお悔やみを申し上げています。そして何よりも早い復興を願っています。

北陸地方の寺社仏閣の被害も百ヶ寺を超えています。皆様のお寺で、被災された縁のある寺院もあるかと思えます。私事ですが微力ながら少しのお手伝いを募金という形でさせていただきます。

ご支援につきましては、所属の寺院にお尋ねください。

合 掌

※この文章は市内の御住職に

寄稿いただきました。

四月の常例布教(法話)のご案内

○前期 四月七日(日)～十一日(木)

大阪教区豊島南組浄久寺

講師 森 祐 真師

○後期 四月十三日(土)～十六日(火)

鹿児島教区東隅組願成寺

講師 藤 清 道師

○場所 小樽別院内

○時間 午後二時(法要終了後)～午後三時半

浄土真宗のみ教えについて布教使にご法話を  
して頂きます。どうぞお誘い合わせいただき、  
ご聴聞に来院ください。席の間隔を保ち、換気  
実施の上、お待ちしております。

発行所

☎047-0017

小樽市若松一丁目四番十七号

本願寺小樽別院

電話 (〇三三三) 二二一〇七四四番  
FAX (〇三三三) 二九一四〇八〇番  
テレホン法話 二七一六六一六番